

盲導犬のルーツを探る

⑩

初期の犬種

ジャーマン・シェパード・ドッグ (German Shepherd Dog)

ドイツ原産の大型犬で、日本語訳すると、「ドイツの牧羊犬」という意味。

第一次世界大戦時には、ドイツ軍の陣地警備や伝令といった作業を行う軍用犬として活躍し、

この大戦によって失明軍人が急増。盲導犬として兵士たちの社会復帰に大きな役割を果たす。

日本で最初に活躍した盲導犬も、このジャーマンシェパード。ピンと立った耳と精悍な顔つきで、

短毛のダブルコート、色はほとんどがブラック&タン。体重はオスで30～40kg、

メスで22～32kg。知的で忠誠心が強い性格で、訓練しやすい犬種。ただし、精悍

すぎる容姿等から、日本国内の盲導犬の犬種では、現在、ほとんど使われていない。



1934年ドイツから来たボドの娘『千歳号』の剥製。当時の和製盲導犬の1頭。犬種はジャーマンシェパードドッグ。

